

ジグマー・ポルケ

Sigmar Polke 1941-2010 ドイツ

ジグマー・ポルケは、不可視なものを絵画で表現し、現実と空想の世界を往来しながら独自の活動を行った。キャンバスに限らずガラス板や布地を用いたり、有機溶剤や酸化剤を組み合わせたりして絵を描くなど多様な手法は「アートの錬金術師」とも言われ、印刷文化におけるイメージや絵画そのものについて再考することを試みた。モチーフをみてもコミックなどの軽いものから、神秘学や夢の内容などとりとめがない。特定の様式に与せずつねに自身の関心に忠実に作風を変えていったが、重層的な画面構成の卓抜さは随一である。

「変容」(1968)は、長年の友人であるアーティスト、ゲルハルト・リヒターとの共作。光を操作して様々な段階で撮影した5枚の山の写真を組み合わせた作品。下部には「ポルケとリヒターが実行した5段階の変容。1968年4月26日、2時間かけて山が球体に変化した。」と記されている。

私はドットを愛する。私はたくさんのドットと結婚した。私はすべてのドットを幸福にしたい。 ジグマー・ポルケ